

## 第 43 回ユネスコ総会（結果報告）

令和 7 年 3 月

**1 開催日時等**

日 程：2025 年 10 月 30 日（木）～11 月 13 日（木）

場 所：ウズベキスタン（サマルカンド）

開催形式：対面（ライブ配信あり）

政府代表：増子文部科学事務次官、加納ユネスコ日本政府代表部特命全権大使

**2 各委員会の日程**

・ 合同委員会	10 月 31 日（金）
・ 教育委員会	10 月 31 日（金）～11 月 4 日（火）
・ 自然科学委員会	11 月 7 日（金）～10 日（月）
・ 情報・コミュニケーション委員会	11 月 5 日（水）～6 日（木）
・ 人文・社会科学委員会	11 月 5 日（水）～6 日（木）
・ 文化委員会	11 月 7 日（金）～10 日（月）

**3 日本政府代表による一般政策演説**

今次総会は、事務局長の交代（ハーリド・エルアナーニ— 元エジプト観光・考古大臣が新事務局長に選出され、就任）のほか、2025 年 7 月の米国脱退表明後初の開催となる重要な会議。10 月 31 日（金）、日本政府を代表して、増子文部科学事務次官による一般政策演説が行われた。



一般政策演説を行う  
増子文部科学事務次官

**【演説の概要】**

- ・ ユネスコ創設 80 周年を前に、日本も 2026 年に加盟 75 周年を迎える節目として、同機関の非政治化と改革の進展に期待を示し、教育・科学・文化を通じた国際課題へのユネスコの積極的な役割発揮を重視。
- ・ 持続可能な開発のための教育（ESD）推進や災害リスク削減、SIDS 支援・海洋科学の発展、文化遺産保護などを通じ、平和構築と加盟国間の相互理解の深化に日本として貢献する決意を表明。

**【参考】**

ユネスコ総会は、2 年に 1 度開催される最高意思決定機関。

## 4 主要議題

### ①ユネスコ事業・予算案（43C/5、2026-2029）及び予算シーリング（43C/14、2026-2027）等の検討と承認【議題3】

#### ○議題概要：

2026年から2029年までのユネスコ事業・予算案（43C/5）や2026年-2027年の予算シーリング（43C/14）等について議論するもの。

#### ○結果：

2026年-2027年の通常予算として、前年比4.9%減の610,045,936米ドルを承認するほか、例外的な移行措置として、通常予算をMCA（Management Cost Account）及びWCF（Working Capital Fund）で補填するよう勧告する決議が採択された。また、224回執行委員会において改訂版の43C/5及び脱退国の分担金未払いの場合における詳細な支出計画を事務局長が提出することを求めるとともに、各セクターへの予算割り当ての承認権限を、1回限りの例外措置として同執行委員会に委譲する決議が採択された。

### ②ILO及びユネスコの教員の地位に関する勧告（1966年）及び高等教育教員の地位に関する勧告（1997年）の改正の望ましさに関する技術的・法的観点からの予備的調査【議題6.2】

#### ○議題概要：

教員の地位に関する唯一の国際的な規範となる文書であるILO及びユネスコの教員の地位に関する勧告（1966年）及び高等教育教員の地位に関する勧告（1997年）の改正に向けて行われた予備的調査の結果を報告するとともに、専門家グループによる検討及び加盟国間の審議を経た上で、2027年に両勧告の改正を行うことを目指す方針について審議するもの。

#### ○結果：

今後、専門家グループの検討と加盟国間の審議を経て、2027年の採択を目指す方針が決定された。決議案は、一部修正の上、採択された。

### ③ニューロテクノロジーの倫理に関する勧告案【議題6.1】

#### ○議題概要：

第42回ユネスコ総会決議に基づき作成され、ユネスコ事務局長から提出された、ニューロテクノロジーの倫理に関する勧告案について、本会合において検討し、採択を求めるもの。

#### ○結果：

同勧告案は、プレナリー会合において正式に採択された。

#### ④事務局長の任命【議題 11.1】

##### ○議題概要：

第 222 回ユネスコ執行委員会で行われた 58 の加盟国による投票の結果、ユネスコ事務局長として指名を受けたハーリド・エルアナーニー候補（エジプト）の信任投票を行うもの。

##### ○結果：

11 月 6 日（木）、全体会合において信任投票が行われ、賛成多数でハーリド・エルアナーニー候補が第 12 代ユネスコ事務局長に任命された。任期は 2025 年～2029 年の 4 年間。

### 5 サイドイベント等への対応

#### ① ユネスコ／日本 ESD 賞表彰式

2025 年は、ベナン、ブラジル、パナマの 3 団体が受賞者として選ばれ、2025 年 11 月 20 日（木）にパリのユネスコ本部で開催された授賞式において発表された。ユネスコ加盟国 59 か国およびユネスコ公式 NG09 団体から推薦された 120 件の中から、上記 3 団体が選定された。授賞式では、日比谷潤子日本ユネスコ国内委員会会長、吉田和浩国際審査員（広島大学教授）、ジャンニーニユネスコ事務局長補から、各受賞団体に対し 5 万米ドルが授与された。

(1) 事業名：「ポベの聖なるオオクポの森の修復と革新的管理

—森林遺産を守り、気候へのレジリエンスを高める—

実施団体：Culture at the Heart of Development (NPO) (ベナン)

(2) 事業名：「エデュカトゥ (Edukatu) —教育を通じて消費のあり方を再考する—

実施主体：Akatu Institute (NPO) (ブラジル)

(3) 事業名：「スパイダー・モンキー・イニシアティブ

—若者主導の森林再生と環境教育—

実施団体：Azuro Eco Foundation (NPO) (パナマ)



## ② 第14回ユースフォーラム

10月26日（日）～28日（火）に、ウズベキスタンのサマルカンドにおいて第14回ユースフォーラムが開催された。ユースフォーラムは、ユネスコの扱う各諸課題について若者の声を聴くという観点から、1999年以降、ユネスコ総会に付随する形式で2年に1度実施されているものである。

今回のユースフォーラムには、日本ユネスコ国内委員会が推薦した次世代ユネスコ国内委員会委員含め、135か国から集まった145名の若者が「Climate Action and Social Impacts, Particularly for Young People」をテーマに議論を行った。気候変動に係わるユース主導の解決策がまとめられ、ユネスコ総会で報告された。

## 6 総会下部機関選挙

11月10日（月）、指名委員会においてユネスコ総会下部機関選挙が行われた。我が国が立候補していた以下5つの総会下部機関について、いずれも無投票により我が国の委員国・理事国への就任が決定した。

- （1）法規委員会（LEG）
- （2）本部庁舎委員会（HQC）
- （3）政府間水文学計画政府間理事会（IHP）
- （4）人間と生物圏計画国際調整理事会（MAB）
- （5）国際コミュニケーション開発計画政府間理事会（IPDC）

（了）